

# 政策対話（建設部）の概要

## 1 テーマ

「信州の多様な住まい方について」 ～信州らしい魅力的な住まい方とは～

## 2 実施概要

### (1) 日 時

令和元年8月4日（日）午後3時から午後5時まで

### (2) 場 所

県立長野図書館3階 信州・学び創造ラボ

### (3) 参加者

15名（建築士、建設業者、宅建業者、司法書士、木材事業者、主婦等）

県側： 建設部長、建築住宅課長、信州暮らし推進課長 ほか

※テーマについて、ワークショップ形式でみなさまと対話を行いました

## 3 寄せられた意見

### (1) 信州にある魅力的な資源・文化・環境とは

- ・ コミュニティーとの「つながり」が比較的強い  
「おすそ分け」、「結」、「お互い様」の文化
- ・ 都会（東京）とのちょうどよい距離感  
遠くも、近くもない、ほどほどの距離感
- ・ まちなかと自然との距離感がちょうどよい  
仕事前や終わりに自然が楽しめる  
景観として大自然を楽しむことが日常的にできる
- ・ 水がきれい、温泉が多い  
そこから派生する、水路利用、酒蔵、ワイナリー、レジャーの文化が豊富
- ・ 郊外では渋滞がないが、車社会のため「まちなか」では渋滞が発生
- ・ 文化財（善光寺、松本城、開智学校、海野宿等）が多い
- ・ 地域ごとの伝統的な祭り、松本ぼんぼん等の市民参加型の祭りが多い
- ・ 民芸、クラフト等が生活の身近にあり、クラフトフェア等の発表の場も多い
- ・ 人口の減少で空き地・空き家が増えて、家と土地が余り、価格が安くなる



## (2) その魅力を活かした暮らしの姿とは

- ・地域で支え合いながら、血縁関係ではない、「おもいやり」をシェアする暮らし
- ・声が聞こえて、生活の香りがする程良く外部に開かれた、コミュニケーションのある暮らし
- ・自然やアクティビティを楽しみながら働くワーケーション
- ・週末、仕事・季節ごとに居住地を移す二地域・二拠点居住
- ・生活の中に自然（用水、畑、日本アルプスの景色等）を取り込む
- ・自動運転等の ICT 技術の発展、カーシェア等による、車が無く便利な暮らし
- ・文化財や古民家を動態保存（使用しながら）していく先人の営みを感じる
- ・「特別な日」は文化資源を使用し、「日常」は高機能な住宅で過ごす
- ・路地にある空き家を使い、クラフト等の趣味を活かした小商いをする



## (3) そんな暮らしに相応しい「住まい」の姿とは

- ・自然を無理に住まいに取込まなくても、ありのままの自然をそのまま活かす住まいが大切
- ・若い人の感覚が変わり、信州で実現できるテレワークやワーケーション等の住まい方の魅力をアピール
- ・車移動でまちを捉えがち、徒歩移動の速度・スケールでまちを捉えた住まい方を提案
- ・終の棲家、財産としての家ではない、新たな住まい方や家仕舞いの在り方を考えることが求められている
- ・暮らしまでは地域の文化が落とし込んでいるが、住まいを考えた時に落とし込む方法の検討
- ・決まった家を持たずに身軽に移動ができる不動産シェア
- ・農山村地域ならではの土間・縁側を利用した地域に開かれたコミュニケーションハブの設置
- ・まちの空きスペース（空き家、空き地）を活かした自宅以外の仕事、趣味、交流、小商い等のプライベート・パブリック半々のシェアスペースの検討
- ・地域内循環を生むエコ住宅を推進し、世代間で継承して、永く使うことができるシステムの構築

